



いつでもどこでも、母親の相談にのる  
PIHS 代表で看護師のナブサさん



2017年1月25日発行

NPO 法人ビラールの医療と自立を支える会  
(英文名略称・HANDS)  
本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11  
TEL & FAX:045-500-9151  
E-mail: hands-mindanao@nifty.com  
<http://hands-mindanao.a.la9.jp/>  
郵便振替口座 00210-5-72693  
(加入者名) ビラールの医療と自立を支える会

## Association (住民組織) と行政 - フラクール校とムスリム医療チーム支援を考える -

### 一 住民組織が運営するブラクール校の着地点は？ 一

前号で、まだ十分成果が出ていないとご報告したブラクール地区35世帯のゴム樹液収入。その後についてPFPに確認しました。継続的な収入源となつてはいるが、お米など食糧調達優先されて、授業料納入他教育費充当の余裕はないようだということでした。

ブラクール小学校とハイスクール部門がSCM学校法人傘下から、政府登録住民組織運営に移行して23年目を迎えました。その間、資金面では日本の少数民族里親の会(FOT)や米市民グループが、また、2002年からは、FOTの活動を引き継いだ当団体が、このスルタンクダラト州山岳部先住民族の教育を支えてきました。ただし、アメリカの支援者は高齢化で今は些少と聞きました。

学校運営の自主財源創出は私たちが支援を受け継いで以来の課題で、学校果樹園事業などを実施しました。果実は給食の一品に加えられたりして、栄養補給にはなっていますが、当初期待していた教師給与の財源にはまだなっていないようです。

ゴムの木事業の成果について、結論を出すには早すぎますが、人件費がかかる学校運営を、住民組織が自主財源で支えるのは容易ではなさそうです。山岳部も行政の責任で教育普及が進む中、ブラクールでも公立移管の可能性を探る必要があります。ちなみに、中等教育は、数年前に山麓に公立ハイスクールができてその役割を終えました。

実は小学校も近隣に公立がないわけではありません。2年程前のブラクール訪問途上、激しいスコールを避けて道端の小屋で雨宿りしていた時、近くに「公立ブラクール小学校」の看板と新しい校舎を見つけました。竣工はさらに1年ほど前のようです。ただし、私たちが支援するブラクール地区からは4kmほど離れています。急こう配の山道の通学は低学年には無理のようです。高学年は公立へ、低学年の教育は住民組織が支えるという、行政とともに初等教育を支える形が当面の着地点ではないかと思っています。

### 一 ムスリム医療チーム PIHS と医療保健行政 一

先日BSテレビで、セブ島の下町報告をやっていました。ベンチでお喋りを楽しむ女性たちは「何の集まり？」とマイクを向けられると、「Association!」「不衛生な通りをセメントで固めた！電気も引いた！」と陽気に答えていました。現地ではどこでも、政府が悪い、賄賂社会だからダメ、とあきらめに似たコメントを聞きますが、女性たちは元気です。ビラールの村アトモロックの母親クラブも同様です。地域レベルの資金規模の小さい事業へのニーズには、Association を結成し、会費収入程度の資金とボランティア労務で対応できることもあります。

2002年より協働しているムスリム医療チームPIHSも、各地区に女性たちの「ヘルス・アソシエーション」を育ててきました。その継続的運営のために、私たちが自主財源事業などで協力してきました。

保健・医療事業も、教育分野と同様に人件費がかかります。患者支援等の活動においては、さらに多額の資金が必要です。PIHSは私たちのような海外NGOと協働することで、実績を積み上げてきました。

今回、このPIHSと助産所開設事業(参考記事P3)を実施するにあたり、当初予定の自己資金だけでは厳しいと考えて、助成金申請を決めました。苦労したのは、事業に関連した「現地自治体の対策」欄を記述する作業です。

PIHSは地元政府との接点があるほうで、研修やセミナーには出席したりしています。しかし、私たちが、現地訪問中に、現地行政担当者と、事業実施に関連して打ち合わせをする機会はほとんどありませんでした。

フィリピンのドゥテルテ大統領、米新大統領トランプ氏、そして、「都民ファースト」の小池知事。今年は政府、行政を身近に感じる年になりそうです。住民のための行政、国民のための政治という視点で、現地のニーズに応える私たちの活動でも、現地行政機関を訪ねるなど接点を増やしたいと思います。(山崎)